

花まる学習会代表
高濱正伸の



この人、花まる上昇中！

株式会社メルカリ 取締役社長兼COO 小泉文明さん



花まる学習会代表
高濱正伸(たかはま まさのぶ)さん

読者にもおなじみのフリマアプリ「メルカリ」は、創設されてから1年あまりで業界トップの座に就きました。今やアプリのダウンロード数は世界で1億、1日の出品数は100万品以上という勢いを誇ります。そんな急成長の立役者の一人が小泉さん。優れた経営能力はもちろんのこと、第2子誕生に伴い、2017年に2ヶ月間の育休をとったことでも注目を集めました。彼の「経営センス」は、子どもたちから芽生えていたようです。

X

株式会社メルカリ
取締役社長兼COO

小泉文明(こいずみ ふみあき)さん

1980年、山梨県生まれ。早稲田大学商学部卒業後、大和証券SMBC(現・大和証券)に入社。2007年にミクシィに入社、取締役執行役員CFOとしてコーポレート部門を統轄。13年にメルカリに参画、17年から現職。

経営の基本は、一人ひとりの居場所があるハッピーな組織を作ることだと思うんです

(小泉)



中学時代の仲間と(左端)。スポーツにも打ち込んでいたが、コンピューターの面白さに目覚めたのもこのころ。

うちの会社の自慢はスピード感！

高濱 今、お子さんは何歳でしたっけ？
小泉 2歳と0歳です。どちらも女の子で、誕生日も同じなんですよ。

高濱 えー。それはすごいですね。偶然？

小泉 予定日は、ほほほほ(笑)。どうせなら一緒に誕生日を祝いたいよねということで、2人目は計画出産です。

高濱 2人目誕生の際、去年の10月から育休をとつたんですね。

小泉 はい。これも偶然なんですけど、うちの子会社の社長にも第1子が誕生したので、2人で2カ月間、ダブルで育休をとりました。もちろん現場が困らないように、その前に具体的な権限委譲を行って。メルカリが発足してから5年目で、経営陣は今後に向けての展望を考える時期でもあったので、ちょうどいい機会かなという気持ちもありました。それにもともと、うちの会社は対象者の9割以上が男女を問わず育

休をとっているんですよ。

高濱 9割！確かに日本の男性の育休取得率って3%前後のはずだけど。

小泉 仕事を休むリスクって、結局、からうちはそれをクリアすべく、休暇中の給与は全額保障*していますし、情報も、オンラインツールを活用することで、どこにいても共有できるようにしています。長期出張と同じ感覚で休めることができます。長期出張と同じ感覚で休めているか。

高濱 会社の成長も速いけど、福利厚生の充実も速いなあ(笑)。

小泉 スピード感は大切ですから。ベンチャーエンチャーが大企業に勝てるところですね。

高濱 でも、小泉さんは、最初は証券大手に就職したんですよね。

小泉 投資銀行本部に3年半いました。

高濱 ベンチャー企業の株式上場(IPO)のサポートを担当していたのですが、これは勉強になりましたね。何十億、何百億というお金の扱い方、資金調達の方法、企業価値や知名度をどう上げるか、時流の読み方……。成功例をたくさん

目の当たりにしたことで、組織経営のコツと醍醐味を学ばせてもらいました。

高濱 もともと経営が好きだった？

小泉 どうでしょう。でも大学時代、250人超えのテニスサークルの代表だったんですよ。これは経営ですよね(笑)？ いろいろ人のさまざまニアーズがある中、それをどうコントロールするかで、人の集まりや盛り上がりが全然違う。僕は飲み会の席順だつてもすごく考えていましたよ。ノリが良くて盛り上がる人はここ、またたりしたトークが好きな人はここ、というふうに、みんながハッピーになるためにどうすればいいのかを念入りに組み立てていました。

高濱 それはすごいなあ。それがうまく当たつたら、そりやうれしいよね。

小泉 はい。戦局を読み、仮説を立て、設計する。想定がうまくはまつたときの快感はたまりません(笑)。

高濱 それは根っからの経営好きかも。じゃあ小さい頃から、夢は社長かな？ どんな小学生だったんですね。

小泉 家から学校まで45分くらいかかるから、登下校が遊びといつしょ。寄り道ばかりして、「もうごはんだから帰りなさい」と言われるまで外にいる典型的な田舎育ちの少年でした。僕ってなぜか、よく人から「すくすく、スースー育つたんですねと言われるんですよ。

高濱 ははは。すくすく、スースー育つことができたのは素晴らしいじゃないですか。

※女性は産前10週・産後約6ヶ月、男性は産後8週の給与を100%保障

今の子に伝えたいことは?

たとえば、どんな小学生時代を送った人を採用したいと思いますか

(高濱)



好奇心をいっぱい持つて
好きなものを見つけて
それに没頭できる能力が
ある人がいいですね

(小泉)

う具体的な夢はあつたんですか。

小泉いや、うちの学校は理系教育に力を入れていたこともあり、生徒は成績がいいとまず医学部を目指すんです。実際、親が医者の子も多くて、次に社長の子。僕はサラリーマン家庭で、自営の状況もわからないし、医者もピンとこないし、そもそも勉強ができない。

高濱卒業後も、会社に勤めましたね。

組織経営の面白さを感じてはいたので、まずは大きな組織に入つて勉強しようと思いました。実際、大企業での仕事はとても役に立ちましたね。ベンチャーエンタープライズを目指すという道も実際ありました。でも、多くのベンチャーの人たちと関わっているうちに、これからは、敷かれたレールやフレームワークの中

ドシツと余裕のある大人に聞くと
ほぼ共通して、小さい頃に徹底的に
体を動かした経験があるんですよ

(高濱)



小泉 東京にも、2、3ヶ月に一度は行つてましたよ。それで、洋服好きが集まるBBS（電子掲示板）を通じて、地方在住の人に洋服や靴の代理購入をしたりして。仕入れよりかなり高く売れるんですよ。そしたら、ちょうど「エアマックス」というスニーカーが爆発的なブームになった頃で、僕はたまたま定価で買つていたんですが、プレミア化するとものすごい値段になるという原体験がありました。あれはすごかつたなあ。

高濱 じゃあ、中高時代はあまり勉強せずに、ファッショனに夢中? **小泉** 正直、勉強は好きではなかつたですね。僕は中高一貫校に行つたんです。もともと高校だけだったところに、僕の代に新しく中学ができることになつた。自由な校風と理系教育に力を入れていると聞いていたので、興味を持ちました。それで、小6の夏に初めて塾に行つて、受験、合格したんです。でも中学に行つたら、まわりはみんな勉強ができる子ばかりで、いきなり成績が悪くなつてもうがつかり。あれは強烈な挫折でしたね。

高濱 それはよくある話だよね。小学校では成績が良かつたのに……という。小泉 中高通してずっと成績はたいして良くなかつたですね。だから今も僕は、勉強は好きじゃない。でもそれが悩みになるわけでもなかつたです。ファッショன以外は、運動に燃えていました。何しろ1期生だから先輩がいない。のびのびです。中学はサッカー、高校になりました。

高濱 いい言葉だなあ。まさに経営者の発言ですね。では、今後に向けて、自分なりの人生のビジョンはありますか。

小泉 長期的なビジョンは持たないようしているんです。目標を立てるとそれに引っ張られるような気がして。むしろその場その場でベストな選択をしていくほうが僕に合つているのかも。実際、そうしてきたから今の人生があると思ってます。

高濱 立ち位置は常に、「今ここにいる自分」という感じ? **小泉** ……実は僕、中学からこれまでに友人を数人亡くしているんです。それも、突然な形でのことが多くて。だから他の人よりも、死はいつもすぐそ

テニスをしました。楽しかったですよ。

高濱 球技が好きだったんですね。**小泉** そうです。同じスポーツでも、目標タイムを乗り越えようと陸上系

より、相手とその都度勝ち負けを争うものが好きでした。記録より戦略がものを言う世界。自分との戦いより、他人との戦いのほうが燃えるんですよ。

高濱 なるほど。スポーツでも、戦略的な作戦が必要なものが好きだったんだ。

小泉 僕はもともと苦手なことをがんばつて克服しようというタイプの人間ではないのかもしれません。好きなことだけやつてグイグイ伸ばせばそれでいいというか。そういう意味で、確かに自分は、「すくすく、スーッ」と育つてきました。

高濱 確かに黙々と勉強するより、よっぽど面白いものね。

高濱 確かに黙々と勉強するより、よっぽど面白いものね。

高濱 はい。ストイックに自己を究めよりも、相手あつてこそ。そこで状況を読みながらどう動くかを考えるんです。

高濱 おじいちゃんおばあちゃんといつぱり面白いものね。

高濱 おじいちゃんおばあちゃんといつぱり面白いものね。

高濱 おじいちゃんおばあちゃんといつぱり面白いものね。

高濱 おじいちゃんおばあちゃんといつぱり面白いものね。

高濱 おじいちゃんおばあちゃんといつぱり面白いものね。

対談を終えて

少年時代と「経営センス」

小泉さんが育つたのは、八ヶ岳と南アルプスに挟まれ、水清く、遠く富士の山容を仰ぎ見る、風光明媚な田舎だ。実は今、私たち夫婦の趣味は乗馬で、たまたまその辺りに通つていて、「本当の大物は、こういう土地で遊びほうけた子から出てくるよね」と言つていたのである。まさしく、

高濱 メメント・モリ（死を想え）といふことです。その思いが、これまでもこれからも一本流れているということですね。

小泉 そうですね。すくすく、スーッと育つた僕だけど、それがひとつの核をなしているかもしません。

びにどこかへ連れていつてくれましたね。

僕は弟が2人いるんですが、毎週末、兄弟みんなでバッティングセンターに行つたり、冬はスキーに行つたりして、休みの日は家でゴロゴロしてまーす、なんて聞くと、とても信じられなかった。

高濱 いいおとうさんだったんだ。おかあさんはどうでしたか。

小泉 母は家にいることが多かつたですね。うちの母方の祖父母がいつしょに住んでいて、父は養子なんです。それもあって、休日はいつも外に出ていたのかも（笑）。だから、養子だったことを読みながらどう動くかを考えるんです。

高濱 なるほど。スポーツでも、戦略的な作戦が必要なものが好きだったんだ。

小泉 そうですね。同じスポーツでも、目標タイムを乗り越えようと陸上系

より、相手とその都度勝ち負けを争うものが好きでした。記録より戦略がものを言う世界。自分との戦いより、他人との戦いのほうが燃えるんですよ。

高濱 なるほど。スポーツでも、戦略

小泉 母は家にいることが多かつたですね。うちの母方の祖父母がいつしょに住んでいて、父は養子なんです。それもあって、休日はいつも外に出ていたのかも（笑）。だから、養子だったことを読みながらどう動くかを考えるんです。



大学時代(左端)。サークルやアルバイトをする中で、グループの調整役を自然にやっていることが多かった。



よく遊んでくれた父、愛情あふれる母と祖父母。仲の良い兄弟。「勉強より大事なもの」を噛みしめるインタビューとなつた。